

県立横須賀高等学校

グローバル・ハイスクール

令和3年度年間報告

1 <成果指標と実績>

<成果指標と実績>						
成果指標	初期値	R5年 目標値	R3年 実績(評価)	R4年 実績(評価)	R5年 実績(評価)	
①「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合	1年 26% 2年 23% 3年 18%	60% 70% 75%	24%(D) 19%(E) 34%(D)	%() %() %()	%() %() %()	
②1週間の家庭学習時間の平均	1年 4.9h 2年 2.2h 3年 2.0h	7h 10h 12h	3.2h(D) 2.8h(E) 5.3h(D)	h() h() h()	h() h() h()	
③自ら進んで授業に取り組む生徒の割合	1年 16% 2年 20% 3年 24%	80% 80% 80%	20%(E) 19%(E) 31%(E)	%() %() %()	%() %() %()	
④授業内容等に興味があって学校を選じた生徒の割合	48%	R6年 80%	R4年 %()	R5年 %()	R6年 %()	

2 <年間の取組報告>

(1) グローバル・ハイスクール研究委員会設置

今年度の取組(県外視察、企業見学、就業体験)等について、内容や在り方の検討を行い、県外視察は1回、企業見学はコロナ禍の中、実施方法を工夫しながら1回実施した。就業体験は、従来の形式での実施に向けて事前指導等は計画通りに取組むことができた。

(2) 総合的な探究の時間の充実

地域探究(掛川市の魅力・課題についての講座)、掛川市内企業見学(2学年)を実施した。掛川市と本校が抱える課題について共有を図り、課題解決に向けた内容について検討を重ねた上で講座を実施した。

(3) 関係機関との連携

掛川市との連携に関する協議を2回実施(8月、1月)し、コンソーシアムの設立、コーディネーターの選定、連携事業について協議した。

(4) 専門研究機関との連携

地域と連携した就業体験や探究学習に先進的に取り組んでいるNPO法人「しずおか共育ネット」、一般社団法人「アスパシ」に講師をお願いし、職員に対する研修会を実施した。

(5) 就業体験等の情報発信

成果物として「地域連携」をテーマとした学校広報誌を作成し、3月に発行した。



(6) 就業体験報告会への関係機関や受入れ企業担当者の招聘

従来の形式による就業体験の実施に向け、1学期から事前指導に取り組んだ。コロナ禍により、2学年の全生徒の受入れ先確保が難しい中、ありがたいことに50社近い企業から協力を得ることができた。2月初めの実施に向けてぎりぎりの段階まで事前指導を行ったが、残念ながら就業体験を中止としたため、報告会も実施することはなかった。報告会については、在り方や内容についてグローバル・ハイスクール研究委員会で検討することができた。

3 <特徴的な取組>

「地域探究」と「企業見学」の実施

新しい試みとして掛川市役所企画政策課、産業労働政策課と連携し、1学年、2学年の生徒を対象に、2つの事業に取り組んだ。2学年では12月に1つめの事業「地域探究」を実施し、本校が所在する掛川市についての理解を深めることを目的に、「掛川市の魅力」と「掛川市の課題」を中心テーマとして、市役所担当職員を講師に講話をお願いし、地域への関心や理解を深めることができた。2つめの事業として、掛川市役所に掛川市内の魅力的な企業を8社紹介していただき、「企業見学」を実施した。クラス単位で、2つの企業を見学し、各企業の事業内容や施設について説明を受け、地域の魅力的な企業について理解を深めることができた。コロナ禍の影響で受入れ先の確保に大きな不安があったが、掛川市の強力な支援を得て、時間や内容等理想的な形で企業見学を実施することができた。また、受入れ先企業からは、本事業に深い理解を示していただき、丁寧で、積極的な対応をしていただけた。なお、1学年を対象に2月に同じ内容で計画を立てたが、受入れ先企業の決定まで進んだ段階でコロナ禍により実施が難しくなった。2学年の、実施後のアンケート内容から、企業見学等には非常に高い効果があると判断し、安易に中止を選択せずに3月に延期して開催する方向を模索したが、コロナ禍の状況が改善されず、やむを得ず今年度内の実施を断念した。



4 <成果と課題>

成果について

- ・ グローバル・ハイスクール研究委員会を中心に、県外視察や研修会等の機会を通じて職員のグローバル・ハイスクール事業への理解や関心を深めることができた。
- ・ 掛川市や専門機関と連携体制について協議した。その中で、従来実施していた就業体験について多角的な視点から内容、取組を検証することができた。従来の就業体験の良い点を生かしつつ、新たな形での就業体験について改善点を探っていききたい。
- ・ 「成果物」作成過程において、本校が従来行っていたさまざまな取組の中に、「学校魅力化」に繋がる素材、リソースが存在することに気付くことができた。それらを発展、改善させ、新たな魅力の創造に繋げたい。

課題について

- ・ 新規の取組をはじめると、既存の行事や取組のスケジュールとの調整が難しく、効果的な時期や時間での設定が難しかった。他の行事も含めて、学校全体の年間計画へあらかじめ組み込む必要を感じた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、計画が予定どおりに進まなかった。視察や研究の進捗状況にも影響し、いくつかの取組も中止せざるを得なかった。そのため、本来であれば、「実践」「検証」「改善」のサイクルで、次年度に向けてより効果的な取組を「構想」する流れであったが、「実践」の機会が設けられない状況が続き苦慮した。しかしながら、その状況下でもさまざまな手段、方法で情報収集に努めることができた。
- ・ コーディネーターの選定については的確な人材がなかなか見つからない状況があるが、本校のねらいとするところを正確に理解し、学校とさまざまな機関、施設等と協力関係を構築する存在となる適任者を選任するため、より広い視野に立って人材の確保に努めたい。